

「JENESYS2.0」

中国大学生訪日団第22陣

訪問日程 平成27年9月13日（日）～9月20日（日）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団第22陣計100名が、9月13日から9月20日までの7泊8日の日程で来日しました。（団長：王占起（オウ・センキ）中国日本友好協会政治交流部 部長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、東京都、新潟県を訪問し、日本の大学生や地域の市民との交流の場を通じて、友好交流と相互理解を深めたほか、日本の法学・国際関係に関するプログラムや政治・歴史・文化・社会等さまざまな視察、参観を通じ、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

9月13日（日）

成田国際空港（第1グループ）、羽田国際空港（第2グループ）より入国、浅草見学、オリエンテーション

9月14日（月）

皇居・二重橋見学、日中関係に関する講義、法政大学訪問・交流、歓迎会

9月15日（火）

第1グループ：最高裁判所視察、法務史料展示室視察、江戸川清掃工場視察

第2グループ：港清掃工場視察、造幣局東京支局視察

共通：国会議事堂視察

9月16日（水）

新潟県へ移動、新潟県による講義、朱鷺メッセ展望室見学

9月17日（木）

新潟大学訪問・交流、農業体験（稲刈り）、弥彦神社見学

9月18日（金）

佐渡島へ移動、トキの森公園・相川地区・佐渡金山見学、

和風温泉旅館での日本文化体験

9月19日（土）

東京都へ移動、商業施設視察、歓送報告会

9月20日（日）

東京タワー見学（第2グループ）、羽田国際空港より帰国

3 写真

	
9月13日 浅草見学（東京都）	9月13日 オリエンテーション（東京都）
9月13日 参観浅草寺（東京都）	9月13日 説明会（東京都）
	
9月14日 皇居・二重橋見学（東京都）	9月14日 宮本雄二日中友好会館副会長による日中関係に関する講義（東京都）
9月14日 参観皇居二重橋（東京都）	9月14日 由日中友好会館宮本雄二副会长作关于日中关系的讲座（東京都）
	
9月14日 宮本雄二日中友好会館副会長による日中関係に関する講義（東京都）	9月14日 法政大学訪問・交流（東京都）
9月14日 由日中友好会館宮本雄二副会长作关于日中关系的讲座（東京都）	9月14日 访问法政大学并进行交流（東京都）

	
9月14日 歓迎会で挨拶する王占起団長（東京都）	9月14日 歓迎会で挨拶する川田勉 外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課地域調整官（東京都）
9月14日 在欢迎会上由王占起团长致辞（东京都）	9月14日 在欢迎会上由外务省亚洲大洋州局中国・蒙古第一课地域调整官川田勉致辞（东京都）
	
9月14日 歓迎会で法政大学の学生と交流（東京都）	9月15日 最高裁判所視察（東京都）
9月14日 在欢迎会上与法政大学的学生进行交流（东京都）	9月15日 参观最高法院（东京都）
	
9月15日 法務史料展示室視察（東京都）	9月15日 江戸川清掃工場視察（東京都）
9月15日 参观法务史料展示室（东京都）	9月15日 参观江戸川清扫工厂（东京都）

	
9月15日 港清掃工場視察（東京都）	9月15日 造幣局東京支局視察（東京都）
9月15日 参观港清扫工厂（东京都）	9月15日 参观造币局东京分局（东京都）
	
9月15日 国会議事堂視察（東京都）	9月16日 新潟県を表敬訪問（新潟県）
9月15日 参观国会议事堂（东京都）	9月16日 拜访新潟县政府（新潟县）
	
9月16日 新潟県による「新潟県の中国との交流」に関する講義（新潟県）	9月16日 新潟県立大学の学生と交流（新潟県）
9月16日 听取新潟县政府讲座（新潟县）	9月16日 与新潟县立大学生进行交流（新潟县）

	
9月16日 朱鷺メッセ展望室見学（新潟県）	9月17日 新潟大学訪問・交流（新潟県）
9月16日 参观朱鷺 Messe 展望室（新潟县）	9月17日 访问新潟大学并进行交流（新潟县）
	
9月17日 新潟大学訪問・交流（新潟県）	9月17日 農業体験（稲刈り）（新潟県）
9月17日 访问新潟大学并进行交流（新潟县）	9月17日 农业体验（割稻子）（新潟县）
	
9月17日 農業体験（おむすび作り）（新潟県）	9月18日 トキの森公園見学（新潟県）
9月17日 农业体验（作饭团）（新潟县）	9月18日 参观朱鷺森林公园（新潟县）

	
9月18日 相川地区見学（新潟県）	9月18日 佐渡金山見学（新潟県）
9月18日 参观相川地区（新潟县）	9月18日 参观佐渡金山（新潟县）
	
9月18日 日本文化体験（民謡鑑賞）（新潟県）	9月19日 歓送報告会 訪日成果報告（東京都）
9月18日 体験日本文化（观赏民谣表演）（新潟县）	9月19日 欢送报告会上团员汇报访日成果（东京都）

4 参加者の感想（抜粋）

○ 初めての海外で外国の文化をよく知ることができ、きめ細やかなもてなしを受けた。日本についての理解が深まり、その魅力を感じた。大学生の間に今回のような交流の機会を得ることができたこと、日本で経験したことは、素晴らしい思い出として生涯記憶に残ると思う。

日本で印象深かったことはたくさんある。例えば、環境が良く緑豊かで、空気もキレイで、秩序がある。働く人々の態度も素晴らしい。誰もが礼儀正しく、ゴミの分別処理の仕方も先進的だ。なかでも、強く印象に残ったことが2つある。1つは、日本人の自制心や自覚、生活や仕事に向き合う態度だ。みな交通規則を守り、電車やバスには並んで乗車するなど秩序がある。職員はどんな役職であってもやる気があって礼儀正しい。バスの運転手も疲れているのに、乗り降りする団員ひとりひとりに挨拶してくれる。一度、自分が疲労困憊していたときに、バスを降りたあとで運転手を見ると微笑んでくれた。こちら自然に微笑み返したことを覚えている。すると急に力が湧いて、これこそが礼儀の持つ力だと思った。見知らぬ者同士でも、微笑みあえば力が湧く。そうすることで、たとえ辛く面白味に欠ける仕事であっても、誰もが自分の仕事を愛することができるのだ。

もう1つは、新潟を訪れた印象だ。新潟は、東京とはひと味違う空気をまとっていた。日本の沿海地域最大の都市である新潟では、ほかでは見られない自然の風景を楽しむことができ、ずっと楽しい気持ちでいることができた。佐渡島での経験も、日本文化を間近に感じることができるものだった。

帰国が間近に迫っているが、やはり名残惜しい気持ちでいっぱいだ。帰ったら、友達や家族に、日本の風景や友好的な人々、科学技術や経済の発展状況など、貴重なエピソードを詳しく披露したいと思う。

今回の訪問で、日本に対する興味を強くかき立てられた。素晴らしい始まり、深い印象、貴重な思い出、途切れることのない景色。中日両国の友好と、両国が緊密な隣人でいられることを願っている。

○ この活動に参加する前、日本について大した印象を持っていなかったし、特に何の理解もなかった。唯一知っているのは、学校で学んだ過去の歴史と、科学技術と経済が発展しているということぐらい。今回の訪問を通して、日本の環境保護対策は素晴らしいと思った。また、日本人は友好的で礼儀正しく、街もきれいで、海鮮など食事も美味しい。日本がとても好きになった。

今回、法政大学、新潟県、新潟大学を訪問し、大勢の同年代の日本の学生と交流したことで、日本人は友好的で、日本と中国の文化には共通点も多いことが分かった。日本では教育、とりわけ青少年への教育をとても重視しており、今回の交流活動のテーマに対して理解が深まった。日本に来ることができてとても嬉しい。日本の優れた文化をいろいろと体験して、日本という国、及び東京や新潟などの都市の魅力を感じた。得るものが大きい経験だった。

○ この活動に参加する前、私は日本人に偏見を持っていた。中国人にとっても冷たいのではないかと考えていたが、今回の交流を通して、日本人はとても親切で、中国人にも友好的だと分かった。また、日本はごちゃごちゃ混乱したところだろうともイメージしていたが、いざ来てみると、とても秩序だった社会で、日本人は規則をとても重んじる人々だと分かった。

法政大学と新潟大学を訪問して日本の大学生の学習や生活の様子を知り、彼らと交流して、友情を深めることもできた。私たちが日本に期待を抱いているのと同じく、彼らも中国に対してさまざまなイメージと期待感を持っている。また、最高裁判所や法務省法務史料展示室を視察したことで日本の法律について興味が湧いた。将来チャンスがあれば、日本に留学して理解を深めたいと思う。

○ 豊富な内容のプログラムを準備してくださり、各関係機関のご協力とサポートに感謝する。

今回の訪問でとても印象的だったのは、国会議事堂の参観と日本の大学生との交流、そして清掃工場の見学だ。日本では、国会議事堂や最高裁判所が広く開放されており、一般市民や小中学生にも国会を見学するチャンスがあることに驚いた。そうすることで、国民と政治の距離を縮め、政治参加の意思を引き上げることに役立つ。江戸川清掃工場は、先進的なゴミ処理技術と効率化された企業管理モデルが印象的で、中国も見習うべきだと思った。法政大学と新潟大学の学生との交流では、自分たちと同年代の日本人は、その多くが親切で物腰も柔らかく、中国に対して敵

意を持っていないと分かった。その上、彼らは理性を持って中日関係や国際関係を捉えることができる。そんな平和的で礼儀正しい態度が印象的だった。

以上のことを周囲に伝えていきたいと思う。ありがとうございました。

○ 今回の交流を通して、日本に対し、これまでとは異なる認識を持つことができた。来日する前は、自分の身の安全をとっても心配していた。日本人は中国人のことが嫌いだと思っていたのだが、今回、その考えを改めることができた。日本の皆さんは誰もが非常に親切で礼儀正しく、文明的で、何をするにも秩序があり、規則をよく守る。

江戸川清掃工場の参観では、とても感心させられた。日本は 1936 年からゴミの分別を開始し、ゴミ焼却によって発生したエネルギーを再利用している。科学技術の力を感じた。こうした清掃工場は中国で見たことがない。中国は人口が多く、おのずと発生するゴミの量も多くなるというのに、大きな中国には日本のこのような工場が 1 か所もない。中国も学び、技術を導入するべきだ。全人類が生きられる環境のために、中国も力を尽くすべきだ。

法政大学と新潟大学の学生との交流では、日本の学生の日常と中国からの留学生の生活を知ることができ、実りの多い経験だった。将来日本に留学するための準備ができた。

今回の訪問で、日本のことをより深く知ることができ、日本が大好きになった。

帰国したら、日本で体験したことをまわりに伝えたいと思う。中日友好の使者として、両国間の交流をより一層深め、友好関係の発展促進に寄与したい。

○ 8 日間の日程ももうすぐ終わろうとしている。少し疲れてはいるが、とても充実した時間だった。日本側の心のこもった手配のもと、日本の素晴らしい部分をたくさん体験することができた。なかでも一番印象に残っているのは、美しい風景と温かい人々だ。環境面で言うと、温暖湿润性気候の日本の風情は格別の味わいがある。都市、田舎ともに緑が豊かで、目にする景色は基本的に緑が基調だ。

日本では、優れた緑化基地と自然環境の保護施設も観光に適したスポットになっている。美しい風景に温かな人々の温かさが加われば、ポイントはさらに上がる。国会議事堂を参観する際、ちょうど安全保障関連法案の反対デモに遭遇した。その光景を見て、平和というのはどこの国民にとっても共通の願いであり、中国の急激な発展は日本にとって脅威になるのかもしれないと思った。だが、戦争の苦しみを経験していればなお、平和の大切さも分かる。だから、いわゆる中国脅威論というのはまったくのデタラメである。もし中日両国が互いの信頼を強めることができれば、ウィンウィンの関係を築けるはずだ。もし帰国して友達に聞かれたら、彼らに日本の素晴らしいところを紹介したい。チャンスがあればまた日本を訪れたいと思う。

○ まず、印象に残ったのは、日本人の礼儀正しさだ。いつも笑顔で人をもてなし、友好的で温かい。彼らからとても敬意を払われていると感じた。日本人は自らを律する意識が強く、規則や制度、特に美しい町を守るための決まりを遵守しようとする。ゴミは分別処理をすることで、資源のリサイクル活用と環境保護の両方の効果がある。このようなゴミ処理技術は中国も参考にすべきだ。

次に、日本の建築物も気に入った。国土面積は小さいが、限りある土地のなかで、科学的かつ

合理的な設計がなされている。日本は緑も美しく、樹木はきちんと手入れされ、青い空と白い雲のコントラストの下で美しい風景を織りなしている。

最後に、日本の食文化は独特だと思った。生食をする食物が多く、野菜をたくさん摂るところは、中国と大きく違うところだろう。私たちは普通、食物に火を通してから食べる。でも、こうした食生活が日本人の優れた体質を作っていることを認めざるを得ない。だから私たちも見習って、野菜をたくさん食べて体格をよくしていかなければと思う。

帰国したら伝えたいのは、日本は旅をする価値のある国だということ。中国とは文化や生活スタイルが大きく異なるが、もしいつもと違う生活を体験してみたいのであれば、日本に行くのは良い選択だと思う。しかし、日本で暮らすことに適しているかどうかは人によるだろう。また、日本人の他人に接する態度や環境保護への意識も我々が学び伝えるべき点だと思う。

今回の日本での活動に影響を受け、自分自身大きく変わった。来た甲斐があったと思う。

○ 日本人の礼儀正しく、実務に長け、綿密で、仕事熱心なところに尊敬の念を覚えるし、秩序のある社会や清潔さ、法制度、効率性の高さも学ぶべき部分だと思う。特に印象深かったのは、非常にキレイな日本の環境だ。ゴミの簡単な分別から、複雑な処理作業まで、つまり個人の意識から政府の政策にいたるまでに、日本が環境保護を重視する姿勢が現れていた。これは中国も十分参考にできるところだと思う。私は今回体験したことを中国に持ち帰り、環境の保護、地球という自分たちの家を守ることを訴えたいと思う。

次に、日本の社会が法律を尊重する姿勢も学ぶべきだと思った。法律を敬い、規則を守るというのは、現代国家において不可欠のこと。中国の法律システムをより完全なものにしていくにはどうすればいいのか？ すべての民族が法を守る意識を持つために、日本の貴重な経験を参考にしたい。

○ 自分にとってとても得難い経験ができて、今回の訪日団に参加できたことをとても幸運に思っている。来日するまでは、インターネットや雑誌などを通して日本を知るほかなかった。イメージのなかでは、日本はとても美しいが、生活リズムが非常に速い国だと思っていた。私を一番引きつけたのは、日本人がとても注意深くゴミを分別していることと、その処理方法だ。私は、環境を保護することでしか人類の発展を維持できないと思っている。私はもともと環境保護主義者で、学校内でゴミの分別についてスピーチしたこともある。果たして、来日してみたら、本や雑誌を通して自分が予想していたとおり、街はすみずみまで美しく、道路脇にゴミ箱があまり置かれていなかった。一番驚いたのは、日本人が自ら進んでゴミを分別していたことだ。ゴミの処理方法にも驚いた。それぞれのプロセスが密接に関係しあって、廃棄物を可能なかぎり再利用している。中国も学ぶべきやり方だ。私が思うに、日本というのは細かい部分で人を感動させる国だ。設備の整ったインフラ施設にしても、親切で善良な人々にしても、心にずっと深く刻まれている。中日関係がどのようなであっても、日本は学ぶべきところの多い国だ。この活動が終わっても、もっと頑張って勉強し、中日友好のために貢献したい。

○ 今回の訪問で印象に残っているのは佐渡島のトキの森公園で、日本人がどれほど動物を大切にしているのか分かった。それ以上に、日本人が中国人との友情をとっても重視していることが分

かった。トキは中日両国の隣人としての友好の印であり、両国民が友情を深め、理解しあうための媒体である。トキの森公園内にはさまざまなトキの模型や映像資料、参観施設があり、さまざまなトキの保護施設や参観客への注意書きなどが設置されている。日本人がいかにかにトキという美しいシンボルや、中国人との友好を大事にしているのか分かった。トキの形を模した工芸品やアクセサリーは、生き生きとしていてカメラに収めると本物のようだ。家族や友達へのお土産にいくつか買って帰り、この数日間に私が受けた日本人からの温かなもてなしとあわせて、まわりの人に伝えたいと思う。彼らが日本人や日本の伝統文化への理解を深めてくれるように促し、両国民が友好的な環境のもとで友情を深め、互いに理解し、学びあえるように後押ししていきたい。

○ 印象に残っているのは、港清掃工場の参観だ。そこではダイレクトに日本の進んだ技術を目の当たりにすることができた。管理はほぼオートメーション化されていて、効率が良い。クリーンで、費やす時間も短く、環境を守り、リサイクルもできるなど、日本が先進国たる由縁を私たちにを見せてくれた。日本政府が環境保護に注ぐ熱意には驚かされた。

次に印象深かったのは造幣局だ。ここでは未だかつてない体験ができた。このような機会を与えてくださった日本側に感謝する。なぜなら、中国では造幣所の所在地すら明かされていないからだ。この日本側のご手配に、とても大きな誠意を感じた。ガイドの丁寧な解説のもと、造幣というプロセスを通して、進んだ機械設備を見ることができた以外に、その背景にある一つの民族の台頭という歴史が透けて見えた。現在の造幣局は勲章やメダル、金属の工芸品なども製造するほか、金や銀、鉬物の分析や実験、貴金属の精製も行っている。こうしたサービスを通して、国民の貨幣に対する信頼を守り、生活水準を維持している。

また、日本の同年代の若者と交流し、特定の専攻の学生以外は政治に対してあまり関心がなく、中日間のわだかまりの元についても理解していないと分かった。私たちの交流が、わだかまりを解くためのスタートだ。祖国に帰ったら、この国の人々の善良さ、温かさ、真面目さ、周到さ、細やかな思いやり、日本が世界に誇る科学技術の発展ぶりをまわりに喜んで伝えたいと思う。

○ これまで日本に対して抱いていたのは、進んだ科学技術を持ち、礼儀正しい国という感覚だった。だがこの訪問団に参加して、日本は資源の保護と利用について十分に考えていること、細部まで完璧に成し遂げることや礼儀を重視する国だということを感じた。また、日本人は、中国や中国人について、私たちと異なる見方をしていることも分かった。

訪問先の大学でたくさんの友達ができ、彼らの日常的な勉強内容や生活を知り、中国の大学生活との違いを感じた。交流中もいろいろと分からないところがあった。例えば、中国の発展や、アジアと世界の情勢などに関する考え方だ。両国がこれから友好関係を結んでいく上で、本当に注目すべきことは何か、力を入れるべき部分はどこか、明確に分からせてくれたと思う。

○ 訪日団への参加前に抱いていた日本の印象はというと、賑やかで慌ただしく、勤勉な国ということ。日本人は謙虚で、目上の人を尊敬し、懸命に働く人々というイメージだった。しかし参加後、日本に対する印象は、慌ただしく勤勉で、和やかで静かなイメージ、日本人に対しては、規則や時間を守るというイメージに変わった。

今回の活動は、私が学んでいる専攻に深く関わる内容だった。外交を学ぶ学生として、国際関

係は避けることのできないテーマだ。通常の授業では集められた二次資料をもとに、中日関係を含む国際関係を研究しているが、それらは所詮、机上の空論にすぎない。今回初めて日本を訪れ、多くの日本の友人と交流したことで、やっと一般的な日本人の考えていることが分かった。そしてそれは、私がずっと抱いていた日本に対する偏見を改め、より真実に近い日本のイメージを還元してくれるものだった。新潟県、新潟大学への訪問と、日本の学生との踏み込んだ話し合いもまた、日本や日本人、日本人の国民性に対する理解を深めてくれた。この経験は、今の私の日本に対する理解だけでなく、今後授業での事例分析や、日本と交流する際にも大いに役に立つと思う。

○ 東京を歩いている感覚は北京と大して変わらない。賑やかな商業施設に、道を急ぐサラリーマンたち。基本的に、国際的な大都市というのはよく似ている。だが、日本の田舎を訪れたときは驚いた。そして、中国と日本の差をまざまざと感じた。

中国の農村のインフラ建設は明らかに日本より大きく遅れている。水洗トイレはほとんど普及しておらず、整った下水処理システムもない。細菌が発生しやすく、疾病も広がりやすい。日本の農村は家屋が美しく、設備も整っている。農家に上がり込んだわけではないが、庭にはたくさんの盆栽が並び、住人が心を込めて手入れしたことが見て取れた。こうした部分からも日本人の一般的教養の高さがうかがえる。生活が満ち足りており、精神面での充実を追求している印だ。

日本の農民が自分たちの仕事を紹介する様子はとても誇らしそうだった。これが有名な日本の「職人」の精神なのだろうと思った。いつか中国の社会も日本と同様に農家に対して十分な関心を向けるようになり、農家の人たちが豊かで安定した生活を送れようになることを望む。農村建設の分野で、日本との交流が盛んになればと思う。私も日本の進んだ農村建設の功績を積極的に周囲に伝え、中日の関係がより緊密になり、大きな効果が上げられることを望んでいる。

○ 今回の訪日で得られたものはとても大きい。衣食住をはじめ、レセプションなどを通して、日本の文化や風習の特徴を体感することができた。日本人は公共の場では異様に静かで、整然と列を作り、新幹線やフェリーに乗る際も出発が遅れるようなことは一度もなかった。港清掃工場の参観では、綿密に計算し尽くされた工程で進められる汚物処理の技術を体感した。大学生との交流でも、日本の青少年の中日友好に対する期待感を感じることができたほか、授業を聴講し、日本の憲法や政治制度についても理解することができた。日本人の政治に対する関心は決して高くないが、自分たちの権利・利益についてはとても関心を持っている。佐渡島での経験は印象深かった。温泉に入り、日本の文化の魅力に触れた。相川地区の解説は、日本の歴史を感じさせて忘れ難い。いつかまた日本を訪れ、より深くその文化を知る機会があることを願っている。